

みつくら

令和 2年 6月15日 第316号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

8区の「元気でまっせ体操」が再開

4月7日から8区の元気でまっせ体操(あじさいの会主催、会長板垣福子さん)が再開した。この体操は2月迄は毎週火曜日に大瀬川振興センターで行っていたが、3月4日からは市の施設が使用中止となり、活動を休止していた。

そうした中で、会員から「屋外でマスクを着用し、間隔をとってするなら問題無いではないか」「仲間同士が会って気分転換になるのも元気体操では」などの声があり、大瀬川振興センター運動公園で再開となったもの。

始まってみるとみなさんこの日を待っていたとばかり、以前と同じ人数が集まったの体操となった。

6月2日からは、大瀬川振興センターも日中は利用出来るため、また屋内で実施している。

作業前の体温測定を通達

新型コロナ対策で花巻市では市の施設の使用を禁止するなどの対応をとっていたが、4月27日付で各農地・水団体に對し、花巻市長からコロナ対策として、作業前に体温を測り記録に残すように通達がなされた。これに伴い、葛丸の農村環境を守る会(板垣幸夫会長、構成員290名)では5月2日から作業日報に作業者の体温を記載している。通達によると、37、5℃以上の方は作業をさせず自宅待機とし、高熱が4日以上続いた時には花巻市新型コロナウイルス感染症対策本部に相談するよう促している。

4月末までであった施設の使用禁止期間は当面の間延長となっていたが、6月1日から条件付きでの利用が可能となった。詳しくは6月1日号に記載している。

人事(敬称略)

大瀬川公葬地管理運営委員会
 委員長 板垣弘清(再)
 副委員長 畠山智明(新) 板垣幸夫(新)
 高橋仁吉(新)
 石鳥谷町芸術文化協会常任理事 板垣あや子

自宅でカブトムシの成長を観察

たばこ屋の板垣龍さん(小2年生)は、自宅でカブトムシの成長を観察し、記録している。龍さんは4月初めに町内のお寺からカブトムシの蛹(さなぎ)を頂いて、飼育瓶で育て蛹(さなぎ)から羽化するところや、その後のカブトムシ飼育の様子を写真に撮り、観察記録を書いている。

お寺では、昨年の夏に柏の木にカブトムシが沢山の卵を産み、その内41匹が蛹になったので、大切に育ててくれる方を探していたが、その一人が龍さんであった。

カブトムシの蛹は雄と雌の二匹で「蛹室」という空間の中で育っているが、その空間が壊れると蛹が死んでしまう。さらに適正な湿度と温度が求められるので絶えず目が離せないとの事であった。こまめに手をかけた結果、4月29日に羽化に成功し無事雄と雌の2匹が立派な姿を現した。この2匹は6月5日現在も元気に動き回っていて、龍さんは毎日エサとして鶏卵や蜂蜜、フルーツフラッシュなどを与えている。

このような研究体験は、大人になっても貴重な経験として役に立つ事でしょう。

歴史クラブが案内看板を清掃

大瀬川歴史クラブ(菅原得之代表)は5月8日に大瀬川地内3ヶ所の案内板を清掃した。清掃したのは一ノ留め案内板と一ノ滝案内板、さらにたろし滝案内板の3ヶ所。特にカビが生えて汚れがひどかったのは、設置してから3年しか経っていない一ノ滝案内板だった。掃除するきっかけとなったのは、会員の一人が5月5日の子供の日に、その看板と瀧を背に家族で写真を撮っているのを目にした時、それまで気付かなかった汚れに気付いたからであった。

ボランティアとは、人目を避けて行い誰が尽くしたか分からない美しさの奉仕と、啓発を兼ねての「呼びかけ奉仕」があるが、熊谷レイ子さん、熊谷良悦さん、菅原富男さん、板垣公さん、菅原得之さんの5人はこの呼びかけに全員参加を頂いた。

大瀬川歴史クラブの会員は、大瀬川活性化会議が主催する「大瀬川歴史探訪講座」を受講した方々が会員で、約80名がいる。

公葬地運営委員会も書面議決総会

5月1日付けで開かれた大瀬川公葬地管理運営委員会(板垣弘清委員長、委員17名)の総会も、新型コロナウイルス感染症対策で書面議決による総会となった。総会資料によると、墓地使用権利者は大瀬川内外で198名から管理費として500円を集金し、管理運営に当たっている。令和1年度は、台風19号の影響で公葬地に倒木が発生し役員でその除去に当たったほか、同じく落葉も激しかったのでその除去も行っている。

令和2年度は、総額約12万円で役員による草刈りや清掃、合籠屋(がんごや)に収容している葬具の保管、年2回の使用権利者による各自墓所清掃、除雪や水道管理などが計画されている。

新型コロナ感染症防止で「さなぶり」なし

9区自治公民館(熊谷武忠館長)では、5月24日に葛丸川河川敷の草刈りと公民館付近の花植えを45名が参加して行い、併せて空き缶回収(年2回実施)も行った。

密にならないように気をつけて、集合時の熊谷館長の挨拶では、「残念ながら恒例となっているさなぶりの開催は今年度は開催出来ませんが今日の事業収益は公民館の補修に役立たせて頂きます」とあった。

その後、男性陣は班毎に大瀬川橋から松林寺橋に分かれ草刈りを行い、女性陣と公民館役員で分かれ花苗を植えた。空き缶はアルミ缶150kgとスチール缶80kgを回収した。

岩手日報に同級会が掲載

昭和37年度大瀬川小学校卒業生の同級会が、5月15日の岩手日報「笑顔で集まれ」に掲載された。写真に写っている方々で顔馴染みの方々は、熊谷収一さん、板垣公さん、菅原正勝さん、菅原孝さん、菅原清昇さん、熊谷幸夫さん達15名であった。この同級会は、今年の2月23日にホテル三右衛門で70歳の古希を祝って開かれ、宿泊での同級会は10年振りであったという。久しぶりの再会で話が弾んだのは、20年前の50歳の時に、大瀬川保育所の保母さんの藤原イト子さん、鎌田アヤさん、松田さんをラ・フランスに招いた時の想いで話であった。保母さんからは「結婚式に呼ばれることは希にありますが、同級会にお招きを受けたのは初めてです」と挨拶があったという。この同級会の方々は、大瀬川保育所が開所して最初の園児でもあった。

大瀬川保育所に関しては、当時民生委員であった板垣種善さんの尽力で昭和30年4月に開所し、石鳥谷保育園が出来るまでの17年間存続した事、存続間の大瀬川保育所長は板垣種善さん、園長は菅原ヒデさんで、歴代保母さんとして上記の3人の他に菊池恵子さんや、板垣正子さん、菅原典子さん、板垣百世さんなどが記録に残っている。

興味深いのは、大瀬川保育所運営審議会というのがあって初代会長は板垣清太郎さん、閉所時の会長は熊谷儀男さんであったこと、また昭和46年に熊谷茂さんが、石鳥谷町保育所保護者連合会長として大瀬川公民館で連合会総会を開いた記録も残っている

畦畔一斉草刈りが始まる

葛丸の農村環境を守る会では、6月1日から畦畔一斉草刈りが始まった。この一斉草刈りは、活動区域内水田360町歩の畦畔草刈りを7月31日迄の2ヶ月間にわたって行うもの。出役者には日当8千円の他、草刈り機(燃料込み)1日使用分として2千8百円を支払う。同会では、新型コロナウイルス感染症対策として、作業前に全員が自宅で体温を測定し、発熱者は自宅待機することになっている。支払限度額は、耕作面積1反歩につき3240円。昨年度の延べ出役人数は1123名であった。

みつくら

令和 2年 6月15日 第316号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

今年も熊が出没

市の広報車が「大瀬川11地割に熊が出没していますので注意して下さい」と呼びかけたのが5月15日。この時は御所森南側に出没した熊が、上堰を渡って葛丸川へと消えて行った。翌日の早朝には、何処を通ってきたのか分からないが、喜左衛門家のハウスに出没した熊はそのまま南下して9区の方へ行ったのが目撃されている。これに先だって5月始めには御所森に小熊が2回出没しているため、屋外に生ゴミなど捨てないよう注意が求められている。

また、昨年は熊よりイノシシの出没が多く聞かれたが、なぜが今年はイノシシの出没が少ないように感じている。

自生花菖蒲園を手入れ

尾平に自生している「大瀬川自生花菖蒲園」を、葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員361名）では4月16日に4人が手入れをした。この手入れの目的は、花が満開に咲いた花菖蒲群落内に、枯れた茅の穂や、同じく枯れた花菖蒲の種包茎が残って見栄えが悪いため刈り払いであった。

守る会で行っている「自生」の「保全」は、単に放って置くだけの「保全」ではなく、現在自生している環境をそのまま残すことを目的に活動している。雑木が生えると日が差さなくなり、茅株に占領されてしまうと根が張れず、芽も出せずに消滅してしまうのを防ぐためである。板垣会長は「自生花菖蒲園の保全活動では、人為的に株分けをして増やしたり、水路を造って水を引いたりしないで、現状の姿をそのまま残すようにしています」と話していた。

会では昨年、この花菖蒲園で花菖蒲に囲まれながら「野点の会」を開いて好評を博した。その折りに「私も参加したかった」との声があったので、今年も7月初旬に開く予定。

天候次第のため、あらかじめ期日を決められないが、参加希望者は6月末までに葛丸の農村環境を守る会の役員に連絡を呼びかけている。後日その方々に日時を連絡することになっている。

今年も少人数で花壇に花苗を植える

大瀬川運動公園の花壇に5月10日大瀬川子供育成会（菅原一禎会長）は花苗を植えた。今年も新型コロナウイルス感染防止に配慮して参加者を絞り、子供は各区1名、親は5名で行った。1週間前に整地した花壇に大瀬川活性化会議（熊谷秀夫会長）がサルビア（赤色と青色）マリーゴールド（黄色と橙色）・白妙菊の花苗を準備。小雨の中、子供達のデザインに従い父兄が植え、子供は区毎に分かれて看板を描き裏面には区全員の子供達の名前を載せた。7月頃には綺麗な花が咲きそろう運動公園を訪れた方の目を楽ませることだろう。

昨年は、草取りに千鳥苑の方が協力して頂いている他、花苗を育ててくれたルンビニー苑の入所者が見学に来た。

9区子供会で資源回収

9区子供会（高橋久美地区長）では5月24日に資源回収を行った。9区では現在小学生が3名となり、各戸への訪問回収は行えないため、事前に9区自治公民館に持ち寄って頂いた。今年も、新聞が2,330kg、雑誌580kg、段ボール510kg、一升瓶332本、ビール瓶（大）185本、牛乳パック30kgの回収となった。「近年、他の回収方法もある中で子供会の資金にと地域の皆さんがストックして下さり感謝しております」と高橋地区長さんは話していた。

「IMOらぼ」世代間交流第2弾スタート

今年も大瀬川活性化会議主催の子供育成会とくずまる大学の世代間交流「ゆめ・みらいプロジェクトIMOらぼ」が6月7日にスタートした。このプロジェクトは昨年からは始まり、サツマイモの植え付けから収穫まで行う。昨年は収穫祭企画で焼き芋のリハーサルまで行ったが、小学校から感染性胃腸炎が出たので飲食は控えてとの連絡が入り、祭前日中止になってしまった。

5月30日に老人クラブの会員16人で畝を作り、作業の密集を避けるために、畝の幅を2mに変更し、植える作業や収穫までの雑草取り、地中の芋を大きくするための蔓返し等の作業がスムーズに行えるものと思いつきの朝仕事となった。

6月7日に子供育成会と老人クラブの総勢48人が参加して80本の苗を植えた。なお、品種は「紅あずま」で、焼き芋や、サツマイモ入りカレーライスの収穫祭を子供達と楽しみにしている。

例年になく草丈が高かった環境整備

6月6日朝6時から本年度最初の大瀬川運動公園と県道13号線脇の環境整備（草刈り）を9区44名の協力で行った。藤原美宏さん（大瀬川活性化会議副会長）が「9区では、この後にも下大瀬川美土里の会第1回目の草刈りの予定がありますので早めに始めますが、事故等が起きない様気を付けて作業をお願いします」と話された。

草を刈って見るとかなり草の丈が高く難儀したほか、グラウンドの東側も丁寧に刈ったので、搬出した草は軽トラ13台分

もあった。今回からは草の捨て場所が変更となり、菅原弘雄さんに案内頂く場面もあった。1時間強の作業で、参加者に飲み物を渡して解散となった。おかげで暫くは運動公園の遊具も気持ち良く使用できる。

次回は、8区の担当で8月のお盆前を予定している。

小雨のなか親子で協力して資源回収

去る5月10日に8区子供会（畠山栄喜地区長）では早朝に資源回収を振興センター駐車場で行った。事前に8区内にチラシを配布しており、地区の人が朝早くから運んできていた。回収車には、親子で協力してリレー方式で積んでいた。回収品目は1升ビン、ビール瓶、紙類は新聞紙、段ボール、雑誌類と牛乳パック。スチール缶とアルミ缶を回収した。

最近では、アルミ缶が多くなり単価も一番高く買い取られ、1キログラム25円であった。「これからも地区民の協力を得て今後も継続していく」と地区長が話していた。資源をリサイクルしようと言われて久しいが子供の頃からリサイクルの大切さを実践する良い機会となっている。

爽やかだった一斉草刈り

下大瀬川美土里の会（高橋義晃代表）では、6月6日に9区民で主に主要幹線道路脇の一斉草刈りを38名が参加して行われた。当日は、作業には爽やかな風が吹き、予定以上の範囲までの草刈りが行われ、9区内の環境は綺麗になった。

訃報

札立場家の菅原雄一さんは、5月30日に95歳で亡くなりました。大瀬川から兵役に従事され、帰還した150名の内、生存者は熊谷良善さんと2名だけでしたが、菅原さんが亡くなられたことで、さらに戦争体験を語り継がれるのは風前の灯火となりました。菅原さんは、陸軍一等兵として弘前や八戸に6ヶ月間勤務された方で、その体験を平成16年に「映像で綴る大瀬川の記録・兵役の証言」に写された姿が思い出されます。菅原さんは、24歳で第八区農区団長を初め、町農協青年部副委員長や町共済組合総代、石鳥谷中学校PTA副会長などで若い頃から地域で活躍された方でした。商業柄、農業関係の役職も多く担われ、山王海土地改良区の筆頭理事を長く務められて、当時の農業基盤整備に大きな貢献を残されました。他にも、大雨が降る度に流された木ノ宮の「ゆっぱゆっぱ橋」も、その架設委員長として、念願の橋を架けた功績は、今では語り草になってしまいました。兵役体験者で組織した「想いでの会」会長としての平和活動、町消防団第2分団長や町消防団第2分団消防後援会長など長年の防災活動で町勢功労者として表彰もされました。その町勢功労者の組織でありました菊薫るの会でも、副会長として、後輩の指導にも携わった方でした。他にも、町シルバー人材センター理事や、大瀬川中央長寿会長など多くの功績を残されました菅原さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。